
第 27 回（令和元年度） 瀬戸内海研究フォーラム in 広島

開催結果の概要 （令和元年 9 月 5 日～6 日）

<テーマ>

「瀬戸内海における持続可能な開発目標（SDGs）に向けた里水と里海の連携」

<趣旨>

2015 年に国連により持続可能な開発目標（SDGs）が設定され、17 項目のうち 14 番目に「海洋資源の保全」が、15 番目に「陸域生態環境保全」があげられました。近年の「里海」や「里山」の取り組みは、積極的な管理と利用によってそこの多様な資源を再生し創生するというもので、まさに SDGs の 14 番目と 15 番目の目標と整合しています。また、古くから瀬戸内地域は、降水量が比較的少なく渇水に悩まされてきました。そのため、ため池や用水路、地下水（井戸水や湧水）などの水環境の積極的な保全と利用が行われており、これらは「里海」や「里山」と同様に「里水」と定義することができます。また、この「里水」の取り組みは、SDGs の 6 番目の目標にあげられている「安全な水の確保」にも対応するものです。陸域と沿岸域とのつながりには水循環も大きな役割を果たしていることから、従来の「里海」と「里山」との関係だけでなく、「里水」との連携についても考慮していくことは有意義でしょう。さらに、昨年 6 月に政府が選定した「SDGs 未来都市」には、広島県も 16 番目の目標である「平和の推進」という点で選定されています。流域圏の環境保全は、過疎化や高齢化などの地域課題の緩和にも貢献するものであり、広い意味で「平和」に寄与していくものです。

以上を踏まえ、今年の研究フォーラムでは、瀬戸内海の「豊かさ・資源の保全」に向けて「陸域環境保全」や「安全な水の確保」とともに目標を達成していくことを想定し、（1）瀬戸内海における貧栄養化の管理について、（2）藻場・干潟の未来について、（3）「里水」との連携について、多様な専門家を交えて議論したいと思います。

<日程・場所>

令和元年9月5日（木）～6日（金）

広島市西区民文化センター ホール、ギャラリー（広島県広島市西区横川新町6-1）

<主催・共催等>

主催：特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議

共催：瀬戸内海環境保全知事・市長会議

協賛：広島大学大学院総合科学研究科、公益社団法人中国電力技術研究財団

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会

後援：環境省、国立研究開発法人水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所、

国土交通省中国地方整備局、広島県、広島市、広島大学、株式会社中国新聞社

<瀬戸内海研究フォーラム in 広島 運営委員会>

運営委員長 小野寺 真一（広島大学大学院総合科学研究科 教授、瀬戸内海研究会議理事）

運営委員 浅野 敏久（広島大学大学院総合科学研究科 教授、総合科学博物館 館長）

運営委員 西嶋 渉（広島大学環境安全センター センター長）

運営委員 作野 裕司（広島大学大学院工学研究科 准教授）

運営委員 山本 民次（広島大学大学院統合生命科学研究科 教授）

運営委員 吉田 勝俊（国立研究開発法人水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 生産環境部長、瀬戸内海研究会議企画委員）

運営委員 堀 正和（国立研究開発法人水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 主任研究員）

運営委員 河村 敏成（広島県環境県民局環境保全課長）

運営委員 上田 茂（広島市環境局環境保全課長）

<参加者数>

合計 242 人

（研究会議会員、講演者、ポスター発表者等の関係者 108 人、その他一般参加者 134 人）

9月5日（木）

開会 12:30～12:50

瀬戸内海研究会議の柳哲雄理事長、瀬戸内海環境保全知事・市長会議の議長県である兵庫県より菅範昭氏（兵庫県農政環境部環境管理局长）の主催者・共催者あいさつに続き、環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室長の中野哲哉氏、広島県環境県民局環境部長の福田幸作氏よりご祝辞を賜りました。また、フォーラム運営委員長である、広島大学大学院総合科学研究科教授の小野寺真一氏より趣旨説明が行われました。

第1セッション「瀬戸内海の貧栄養化と流域圏の管理」12:55～14:55

◆コーディネーター

瀬戸内海の貧栄養化と流域圏の管理

山本 民次（広島大学大学院統合生命科学研究科 教授）

◆講演テーマ

①流域モデル解析による瀬戸内海一級河川からの栄養塩負荷量の長期変動

清水 裕太（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業情報研究センター 研究員）

②広島湾におけるカキ養殖を持続させるために～貧栄養状態に対抗するための採苗対策の取組み～

相田 聡（広島県立総合技術研究所 水産海洋技術センター センター長）

③豊かで美しい瀬戸内海を目指して～兵庫県の取組み～

菅 範昭（兵庫県農政環境部環境管理局长）

④貧栄養海域で漁業生産を向上させるための試みとその科学的評価

山本 民次（広島大学大学院統合生命科学研究科 教授）

◆内容

「瀬戸内海の貧栄養化と流域圏の管理」というテーマで、清水様からは陸域からの流入負荷に関する長期間の見積りと土地利用の変化についての感度解析、相田様からは、貧栄養化状態にある広島湾で、カキ幼生を採苗するための具体的工夫について、ご講演を頂きました。また、菅様からは、あまりに低下した栄養塩濃度に対して海域での下限目標値を設定しようという、兵庫県独自の取組みについて、最後に山本様からは、貧栄養化の過程に関する学術的理解と、陸域負荷の増大による海域生態系の応答、さらには局所的施肥による生物増殖の促進事例について話題提供を頂きました。

ポスター発表セッション「瀬戸内海と周辺地域の文化・環境に関する研究・活動報告」15:05～17:55

◆コーディネーター

広島大学大学院工学研究科 准教授 作野 裕司

◆内容

瀬戸内海と周辺地域の文化・環境に関する研究や活動報告について、学生や研究者、市民団体等、様々な立場の58名の方にポスター発表（ポスター前説明）を実施いただきました。また、58名のうち41名の方（ポスター賞応募者）に、フラッシュ口頭発表（1人あたりスライド1枚、発表時間1分）を実施いただきました。

ポ ス タ ー 掲 示 順	フラッシュ口頭 発表実施：● (計41件) ※ポスター賞応募者のみ実施 ※発表順は掲示順に従う	ポスター発表題目	分野 ※事務局による分類のため、実際の内容と異なる場合があります。ご了承ください。	発表者	所 属
1	●	2018年西日本豪雨が瀬戸内海流域からの流出に及ぼした影響 (1) : Debris flow and nutrient discharge in headwaters (源流での土石流と栄養塩流出)	物理・化学	Anna Rusydi	Graduate School of integrated Arts and Sciences, Hiroshima University
2	●	2018年西日本豪雨が瀬戸内海流域からの流出に及ぼした影響 (2) : Peak discharge estimation from Yamato River, using SWAT model (SWATモデルによる大和川ピーク流量の推定)	物理・化学	王 昆陽	広島大学大学院総合科学研究科
3	－	2018年西日本豪雨が瀬戸内海流域からの流出に及ぼした影響 (3) : 高梁川からの懸濁物質および栄養塩流出	物理・化学	小野寺 真一	広島大学大学院総合科学研究科
4	－	2018年西日本豪雨が瀬戸内海流域からの流出に及ぼした影響(4):潮間帯スケールでの海底湧水	物理・化学	齋藤 光代	岡山大学, 大学院環境生命科学研究科
5	●	Estimation of groundwater recharge and nutrient transport in Higashi-Hiroshima catchments (東広島市流域における地下水涵養と栄養塩輸送)	物理・化学	Sharon Kimbi	Graduate School of Integrated Arts and Sciences Hiroshima University
6	●	水の安定同位体法を利用した干潟に湧出する地下水起源の推定	物理・化学	野崎 真吾	広島大学総合科学部
7	●	瀬戸内海沿岸地下水における塩水化と地下水流動に及ぼす都市化と地形の影響	物理・化学	友澤 裕介	広島大学大学院総合科学研究科
8	－	岡山県倉敷平野の地下水流動に及ぼす高梁川の影響	物理・化学	竹内 徹	(株)フジタ地質
9	●	西日本豪雨で瀬戸内海に流出したまさ土の分光反射率特性	物理・化学	原田 優生	広島大学工学部第四類
10	●	豊後水道と紀伊水道の水位差と音波伝搬時間から推定された瀬戸内海平均流の関係	物理・化学	黒澤 忠	広島大学工学部第四類
11	●	音波伝搬時間から得られた広島湾北部の風による流速変動	物理・化学	中井 浩志	広島大学工学部第四類
12	●	地下水の水源利用が淀川流域の栄養塩輸送に及ぼす影響	物理・化学	中谷 祐介	大阪大学大学院工学研究科
13	●	Comparison of Microplastics Pollution in the Seto Inland Sea and Sea of Japan Surrounding Yamaguchi Prefecture Areas, Japan: Identification and Characterization, Distribution, and Abundance Comparison 山口県周辺の瀬戸内海と日本海におけるマイクロプラスチック汚染: 同定、特性評価、分布および存在量の比較	物理・化学	A. H. M. Enamul KABIR	Department of Civil and Environmental Engineering, Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi University, Japan
14	●	Resuspension analyses of bottom sediment due to waves (波による底質の再懸濁量の推定)	物理・化学	陳 彦瑾 (Yanjin Chen)	岡山大学大学院環境生命科学研究科
15	－	岡山県備前市日生産久居島現寺湾における連続水温縦断観測	物理・化学	大久保 賢治	岡山大学大学院環境生命科学研究科
16	－	沿岸海域生物の飼育水槽における窒素化合物を中心とした水質変化	化学・生物	橋本 庄	広島国際学院大学大学院工学研究科
17	－	酒都西条の醸造用地下水の水質と清酒酵母の増殖	化学・生物	竹野 健次	広島国際学院大学大学院工学研究科
18	●	完熟鶏糞堆肥を用いた干潟用施肥材の開発	化学・生物	上野 智貴	広島大学大学院生物圏科学研究科
19	●	牛窓沖バイによる冬季栄養塩の時系列データ特性	化学・生物	田中 美佳	広島大学工学部第四類
20	－	広島湾の底層環境とベントスの生息状況について	化学・生物	小田 新一郎	広島県立総合技術研究所保健環境センター
21	●	岡山県児島湾内の四番港に設置したカキ殻ブロックにおける無機態窒素への変換能力について	化学・生物	都築 和紘	岡山理科大学理理学部基礎理学科
22	●	淀川河口干潟の炭素・窒素・リンに着目した水質浄化の特性評価	化学・生物	屋敷 朋也	大阪府立大学工業高等専門学校
23	●	過栄養域である尼崎運河の時空間的な水質分布と二酸化炭素フラックス	化学・生物	藤嶋 康平	大阪府立大学工業高等専門学校
24	●	珪藻 <i>Skeletonema costatum</i> においてリン制限は顕著な強光阻害を引き起こす	化学・生物	矢野 諒子	広島大学大学院 統合生命科学研究科
25	●	瀬戸内海播磨灘における栄養塩物質の循環	化学・生物	大坊 寿成	香川大学農学部
26	●	広島県賀茂川河口干潟における底生珪藻類の出現動態に関する研究	化学・生物	萩原 綾美	広島大学大学院統合生命科学研究科 博士課程前期1年
27	－	海水中で生分解性樹脂の分解に影響する因子	化学・生物	中山 敦好	(国研)産業技術総合研究所
28	●	養殖が盛んな内湾における表層堆積物中の形態別リン分布の特徴	化学・生物	須賀 大智	香川大学 農学部
29	－	岡山県海域における栄養塩環境とマガキの成長との関係	化学・生物	山下 泰司	岡山県農林水産総合センター水産研究所
30	－	瀬戸内海山崎湾の干潟域におけるクロダイ <i>Acanthopagrus schlegelii</i> の食性および炭素・窒素安定同位体比 一流域圏・干潟生態系における餌資源としてのアサリ・マテガイ等砂浜性二枚貝の重要性一	化学・生物	重田 利拓	水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ
31	－	瀬戸内島嶼部における地下水蓄積窒素を活用したカンキツ栽培方式	化学・生物	松森 堅治	農研機構西日本農業研究センター
32	●	下水処理水と食物連鎖を活用した魚類飼育の試み	化学・生物	谷川 大輔	呉工業高等専門学校
33	●	新規開発貴金属抽出液肥料によるノリ陸上養殖の検討	化学・生物	山本 沙織	広島大学生物生産学部

ポ ス タ ー 掲 示 順	フラッシュ口頭 発表実施:● (計41件) ※ポスター賞応募 者のみ実施 ※発表順は掲示 順に従う	ポスター発表題目	分野 ※事務局による 分類のため、実際の 内容と異なる場合 があります。ご了承くだ さい。	発表者	所 属
34	●	外来種チュウゴクスジエビ <i>Palaemon sinensis</i> の分布域拡大と遺伝的解析	生物・環境	小笠原 長護	広島大学大学院統合生命科学研究科
35	●	瀬戸内海沿岸域の藻場分布状況を知る地球観測衛星データの定量解析	生物・環境	勝部 雄介	福山大学大学院 工学研究科
36	●	広島県沿岸の干潟におけるベントスの分布状況	生物・環境	奥迫 優	広島工業大学大学院 工学系研究科
37	-	香川県の礫浜海岸の潮間帯における貝類相と十脚目甲殻類相	生物・環境	深尾 剛志	香川大学農学部
38	●	里海の聖地・日生米子湾干潟におけるベントス層変化	生物・環境	近藤 力領	岡山学芸館高等学校医進サイエンスコース
39	●	海産ハーブを用いた海産無脊椎動物への忌避剤	生物・環境	Christopher J. Bayne	(国研)水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所
40	●	食物網を考慮した尼崎運河における生物生息場創出に関する研究	生物・環境	岩見 和樹	徳島大学大学院 先端技術科学教育部
41	●	ドローンで観察された岡山県牛窓海域におけるスナメリの行動	生物・環境	若松 智希	岡山理科大学生物地球科学研究科 動物自然史研究室
42	●	広島湾北西部大野瀬戸における従属栄養性渦鞭毛虫 <i>Gyrodinium dominans</i> の急激な増加と <i>Heterosigma akashiwo</i> の衰退	生物・環境	北辻 さほ	国立研究開発法人水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所
43	●	Effective use of artificial reefs for habitat creation and fisheries enhancement in Mitsu Bay (三津湾での魚類生息場の創造と漁獲量向上のための人工魚礁の活用)	生物・環境	Jamaluddin Fitrah Alam	Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University
44	●	UAVを使った瀬戸内海の沿岸環境モニタリング	生物・環境	白石 朗光	岡山大学大学院 環境生命科学研究科
45	-	しまなみ海域に生育する褐藻アカモク集団の系統地理的解析	生物・環境	山岸 幸正	福山大学 生命工学部 海洋生物科学科
46	●	マイクロプラスチックの渦との関係性と植物への影響	社会	河野 夏実、世羅 花音、辰川 和奈、谷口 萌衣	安田女子高等学校
47	●	漁業者と取り組む貝殻人工魚礁を利用したマダコを増やす取組の紹介	社会	森下 剛匠	海洋建設株式会社
48	●	半尾川再生まちづくり倶楽部の活動～忘れられた川の再生をめざして～	社会	小倉 亜紗美	呉工業高等専門学校 人文社会系分野
49	-	東広島市における市民参加の里海づくりの取り組み	社会	中原 真哉	(一財)広島県環境保健協会
50	-	災害時を念頭にした瀬戸内沿岸域の地下水利用	社会	開発 一郎	広島大学名誉教授
51	●	尼崎運河水質浄化施設での里海づくり活動によるグリーンインフラ効果について	社会	宮内 尚輝	徳島大学大学院 先端技術教育部
52	●	瀬戸内国際芸術祭前後における島々の小規模な観光事業の変化 The Changes of Small-scale Tourism Businesses on Islands after the Setouchi Triennale	社会	渠 蒙 (Meng Qu)	広島大学大学院総合科学研究科 博士課程後期
53	●	地域ミュージアムを拠点とした地域活性化の取り組みが与える地域への影響～香川大学さかいで沙弥島プロジェクトを事例として～	社会	大塚 健矢	香川大学経済学部
54	●	島嶼部における地域振興に向けた取り組み～香川大学小豆島SAKATEプロジェクトを事例として～	社会	嶽野 祥吾	香川大学農学部
55	●	大学生による離島の魅力発信に向けた取り組み～香川大学直島地域活性化プロジェクトを事例として～	社会	藤森 世紀	香川大学経済学部
56	●	高松盆栽の認知度向上に向けたアプローチ～香川大学Bonsai☆Girls Projectを事例として～	社会	近藤 愛鈴	香川大学創造工学部
57	-	森林教育のすすめ	社会	中島 皇	京都大学フィールド科学教育研究センター
58	-	旭川における流域を連携した水環境・地域をまもる活動	社会	竹原 和夫	旭川流域ネットワーク (AR-NET)

瀬戸内海研究会議 総会 18:05～18:30

懇親会 18:40～20:00

参加者数 73 名

9月6日（金）

第2セッション「藻場・干潟と流域圏との関係」 9:30～11:30

◆コーディネーター

藻場・干潟と流域圏との関係（趣旨説明）

堀 正和（国立研究開発法人水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 主任研究員）

◆講演テーマ

①瀬戸内海における藻場・干潟分布状況と沿岸域の保全・再生・創出

中野 哲哉（環境省 水・大気環境局 水環境課 閉鎖性海域対策室長）

②藻場・干潟における栄養物質の収支

一見 和彦（香川大学 瀬戸内圏研究センター 教授）

③藻場・干潟生態系における海底湧水の重要性；瀬戸内海沿岸での研究結果からみえてきたこと

齋藤 光代（岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授）

④流域の土地利用変化と沿岸への栄養塩供給の関係 ～北海道東部における事例研究～

井上 貴央（北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 博士研究員）

◆内容

「藻場・干潟と流域圏との関係」というテーマで、まず中野様より瀬戸内海における藻場・干潟の分布の現状とその保全・再生に関わる現行施策等についてご講演頂きました。次に一見様より、陸水流入の藻場・干潟へ影響について、齋藤様より海底湧水の生態系機能への影響について、ご講義いただきました。その後、井上様より、流域圏の土地利用変化による陸水流入を介した栄養塩供給量の変化、モデルによる将来予測についてご講演いただきました。最後にこれらの結果を踏まえて、これからの瀬戸内海に必要な藻場・干潟管理に関する総合討論が行われました。

第3セッション「流域圏における里水と里海の連携（SATO NET）」 12:30～14:30

◆コーディネーター

流域圏における里水と里海の連携（SATO NET）（趣旨説明）

小野寺 真一（広島大学大学院総合科学研究科 教授）

◆講演テーマ

①流域圏における里水とその里海への役割

小野寺 真一（広島大学大学院総合科学研究科 教授）

②森里川海からはじまる地域づくりー地域循環共生圏の創造ー

原田 幸也（中国四国地方環境事務所 広島事務所長）

③岡山県吉井川流域における連携の取り組み

三雲 弘和（(一社)吉井川流域DMO 前 C.E.O./ (一社)岡山県地域おこし協力隊ネットワーク 理事）

④企業の取組み ー天然水奥大山ブナの森工場の例ー

山本 亮（サントリープロダクツ株式会社 天然水奥大山ブナの森工場 事務長）

⑤瀬戸内海的环境に関する市民意識 ー環境認識・情報・市民活動ー

浅野 敏久（広島大学大学院総合科学研究科 教授）

◆内容

「流域圏における里水と里海の連携（SATO NET）」をテーマに、SATO NET の概念の概要と基盤となる市民意識、さらにはその実現のための取り組みについて、従来からある沿岸の上流域への一方向的なアプローチ等に限らず、多様な視点から5人のパネラー（研究者2人、行政関係者1人、民間（NPO 及び企業）2人）から話題提供をしていただきました。自然環境と人間生活との共生や資源の創生など、さらに、環境保全活動の実施による改善された環境から癒しを受けるといった多様な価値についての探索、それらの定量についても議論が行われました。

総括・ポスター賞発表・閉会 14:30～15:00

「瀬戸内海における持続可能な開発目標（SDGs）に向けた里水と里海の連携」をテーマに2日間に渡って開催されたフォーラムの成果について、運営委員長より総括が行われました。

今回のフォーラムでは里水という新しい概念から SDGsを視野に入れ、里水と里海の連携についての議論ができ、研究者だけではなく、民間や行政等も含めた様々な視点からの議論が必要であるという課題が改めて認識され、今後、SDGs到達目標の2030年にかけて議論されていくことが、今回のフォーラムでの課題への答えにつながると総括されました。

また、瀬戸内海研究会議の理事及び運営委員からの投票により若手・研究者を対象としたポスター賞として最優秀賞1名、優秀賞5名の受賞者を決定し、柳理事長より表彰を行いました。

◆最優秀賞

○地下水の水源利用が淀川流域の栄養塩輸送に及ぼす影響

大阪大学大学院工学研究科 中谷 祐介

◆優秀賞

○海産ハープを用いた海産無脊椎動物への忌避剤

国立研究開発法人水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所

Christopher J. Bayne

○漁業者と取り組む貝殻人工魚礁を利用したマダコを増やす取組の紹介

海洋建設株式会社

森下 剛匠

○半尾川再生まちづくり倶楽部の活動～忘れられた川の再生をめざして～

呉工業高等専門学校

小倉 亜紗美

○Comparison of Microplastics Pollution in the Seto Inland Sea and Sea of Japan Surrounding Yamaguchi Prefecture Areas, Japan: Identification and Characterization, Distribution, and Abundance Comparison (山口県周辺の瀬戸内海と日本海におけるマイクロプラスチック汚染: 同定、特性評価, 分布および存在量の比較)

Department of Civil and Environmental Engineering, Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi University, Japan

A. H. M. Enamul KABIR

○珪藻 *Skeletonema costatum* においてリン制限は顕著な強光阻害を引き起こす

広島大学大学院 統合生命科学研究科

矢野 諒子

最後に、瀬戸内海研究会議の多田邦尚副理事長（香川大学教授）より閉会あいさつが行われ、フォーラム開催協力への御礼を申し上げるとともに、来年の「瀬戸内海研究フォーラム in 福岡」への参加が呼びかけられました。

第 27 回（令和元年度）瀬戸内海研究フォーラム in 広島

開催時の状況について

開会 9月5日 12:30～12:50



開会式



開会あいさつ
特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議
理事長 柳 哲雄 氏



あいさつ
瀬戸内海環境保全知事・市長会議 議長県代表
兵庫県環境管理局长 菅 範昭 氏



ご祝辞
環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室
室長 中野 哲哉 氏



ご祝辞
広島県環境県民局環境部長 福田 幸作 氏

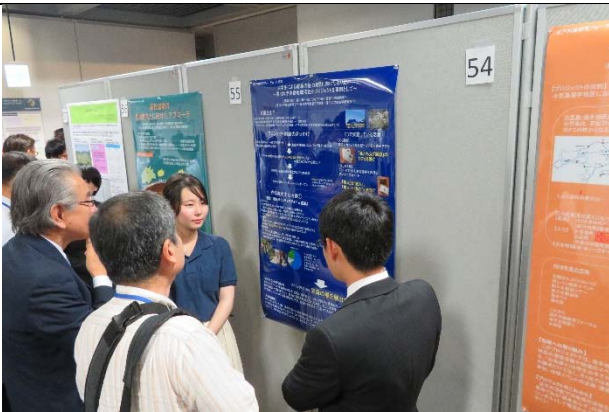
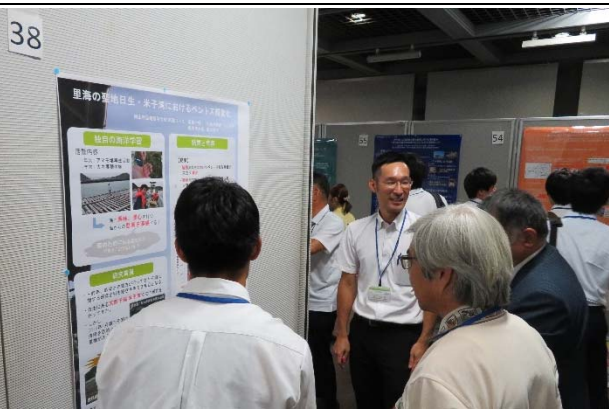


趣旨説明
瀬戸内海研究フォーラム 運営委員長
広島大学大学院総合科学研究科 教授
小野寺 真一 氏

第1セッション 12:55～14:55

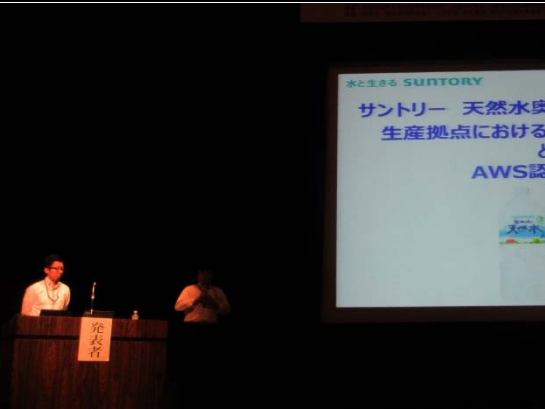
	
第1セッション 趣旨説明 『瀬戸内海の貧栄養化と流域圏の管理』 広島大学大学院統合生命科学研究科 教授 山本 民次 氏	第1セッション 講演① 「流域モデル解析による瀬戸内海一級河川からの 栄養塩負荷量の長期変動」 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農業情報研究センター 研究員 清水 裕太 氏
	
第1セッション 講演② 「広島湾におけるカキ養殖を持続させるために ～貧栄養状態に対抗するための採苗対策の取組み～」 広島県立総合技術研究所水産海洋技術センター センター長 相田 聡 氏	第1セッション 講演③ 「豊かで美しい瀬戸内海を目指して ～兵庫県の取組み～」 兵庫県農政環境部環境管理局长 菅 範昭 氏
	
第1セッション 講演④ 「貧栄養海域で漁業生産を向上させるための 試みとその科学的評価」 広島大学大学院統合生命科学研究科 教授 山本 民次 氏	第2セッション 総合討論

ポスター発表セッション 15:05~17:55

	
ポスター発表セッション 趣旨説明 『瀬戸内海と周辺地域の文化・環境に関する 研究・活動報告 (ポスター発表)』 広島大学大学院工学研究科 准教授 作野 裕司 氏	ポスター発表セッション ポスター発表 (概要説明) ①
	
ポスター発表セッション ポスター発表 (概要説明) ②	ポスター発表セッション ポスター発表 (個別説明) ①
	
ポスター発表セッション ポスター発表 (個別説明) ②	ポスター発表セッション ポスター発表 (個別説明) ③

	
第2セッション 趣旨説明 『藻場・干潟と流域圏との関係』 国立研究開発法人水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 主任研究員 堀 正和 氏	第2セッション 講演① 『瀬戸内海における藻場・干潟分布状況と 沿岸域の保全・再生・創出』 環境省水・大気環境局 水環境課閉鎖性海域対策室 室長 中野 哲哉 氏
	
第2セッション講演② 『藻場・干潟における栄養物質の収支』 香川大学 瀬戸内圏研究センター 教授 一見 和彦 氏	第2セッション講演③ 『藻場・干潟生態系における海底湧水の重要性； 瀬戸内海沿岸での研究結果からみえてきたこと』 岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授 齋藤 光代 氏
	
第2セッション講演④ 『流域の土地利用変化と沿岸への栄養塩供給の関 係 ～北海道東部における事例研究～』 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 博士研究員 井上 貴央 氏	第2セッション 総合討論

第3セッション 12:30~14:30

	
第3セッション 趣旨説明 『流域圏における里水と里海の連携 (SATO NET)』 広島大学大学院総合科学研究科 教授 小野寺 真一 氏	第3セッション 講演① 「流域圏における里水とその里海への役割」 広島大学大学院総合科学研究科 教授 小野寺 真一 氏
	
第3セッション 講演② 「森里川海からはじまる地域づくり ー地域循環共生圏の創造ー」 中国四国地方環境事務所 広島事務所 所長 原田 幸也 氏	第3セッション 講演③ 「岡山県吉井川流域における連携の取り組み」 (一社) 吉井川流域 DMO 前 C.E.O. / (一社) 岡山県地域おこし協力隊ネットワーク 理事 三雲 弘和 氏
	
第3セッション 講演④ 「企業の取り組み ー天然水奥大山ブナの森工場の例ー」 サントリープロダクツ株式会社 天然水奥大山ブナの森工場 事務長 山本 亮 氏	第3セッション 講演⑤ 瀬戸内海に関する市民意識 ー環境認識・情報・市民活動ー 広島大学大学院総合科学研究科 教授 浅野 敏久 氏

統括・ポスター賞表彰式・閉会 14:30～15:00

	
統括 瀬戸内海研究フォーラム 運営委員長 広島大学大学院総合科学研究科 教授 小野寺 真一 氏	ポスター賞表彰式
	
閉会あいさつ 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議 副理事長 多田 邦尚 氏	—